



リードに注意!

町にはどんなに小さな犬でも、犬というだけで恐怖心を持ってしまう人がいます。犬が苦手な人にとっては犬が放れて散歩をしている公園へは怖くて遊びにいけません。クレームが大量に役所に寄せられると、公園が犬の立ち入り禁止になってしまうこともあります。目を離すことは放置ウンチの原因にもなりますし、相性の合わない犬と出合ったときに制止しにくくなります。もちろん車や自転車による交通事故から愛犬を守りにくくなります。また、リードの長さにも注意が必要です。商店街のように通行人が多い場所で安易にリードを長くしていると、自転車や子供に引っかかり思わぬ事故を引き起こすことがあります。通行人の多い場所では、リードを短めに持つようにしましょう。伸びるリードを使うときは、ロックをかけて使うほうが良いでしょう。犬が苦手な方に対して余計な恐怖心を与えないようにすることや、事故を起こさないようにすることは、犬に優しい社会作りの一歩なのです。



こわい・・・



狂犬病の予防、してますか？

狂犬病は、発症するとほぼ100%死に至る恐ろしい伝染病です。狂犬病という名称から、犬だけの病気と思われがちですが、人、猫やコウモリをはじめとしたほとんど全ての哺乳動物に感染する病気です。

日本において、犬の他の感染症を予防するかどうかは飼い主の判断によりますが、狂犬病は「狂犬病予防法」によって、生後91日以上の子犬に1年に1回の予防接種を受けさせることが義務付けられています。過去2年間発症例の無い国をWHO(世界保健機構)では「狂犬病清浄国」としていますが、清浄国とされているのは日本を含めほんの十数カ国のみなのです。清浄国の方が例外的であり、世界では3万から5万の人が狂犬病で亡くなっているのです。日本では昭和32年以降発症例がありませんが、現在、狂犬病ウィルスを持つ野生動物が何らかの形で日本に持ち込まれ、日本で狂犬病が発生する可能性が指摘されています。「もう日本には無い病気だから」と予防をしない方もいらっしゃいますが、実は絶対安全というわけではありません。いざというときに、愛犬の命を守れるように、狂犬病の予防接種は毎年きちんと受けさせましょう。



恐ろしい病気を予防しよう!

私たち人間同様、犬にもたくさんの感染症があり、死に至る危険なものもあります。感染力が強く致死率の高い病気については、ワクチンで予防できます。ワクチンを接種したからといって100%か

からなくなるわけではありませんが、その病気にかかりにくくなることと、たとえかかったとしても比較的軽症で済み、致死率が低くなるメリットがあります。また、中には人に感染するものがありますので、注意が必要です。また、蚊が媒介するフィラリアという寄生虫も要注意。フィラリアは心臓に寄生し、犬の血の流れを悪くすることで色々な悪影響を与え、大量に寄生された場合はもちろん、少数の寄生でも死に至ることがあるのです。この病気は予防をきちんと行うことで100%防げます。住んでいる地域によって予防する時期が異なり、犬の体重によって薬の量が異なりますので、予防する際には必ず獣医さんに相談をしましょう。

愛犬と永く幸せに暮らすためには、恐ろしい病気の予防をきちんとすることが第一です。



何気ない言葉をかけてみよう!

一昔前は、愛犬を良い子にしようと思うばかりに、叩いてしつける家庭が多かったようです。叩かれた犬は人間に対して余計な警戒心を持つようになり、無駄吠えや攻撃性などの問題行動の原因になる

のです。今は愛犬を叩く人がずいぶん少なくなったのですが、叱り言葉や命令語でしか愛犬と接していない家庭が多いようです。叱りすぎると人間を怖がるようになることがあります。また、犬にかける言葉のほとんどが「イケナイ」や「スワレ」などの命令語の場合、飼い主とのつながりを一番強く感じられるのが、指示を受けたときだけになってしまい、飼い主の命令が無いときに不安になってしまいます。これは、飼い主の気を引くためのいたずらや無駄吠えの原因になります。それを防ぐためには、命令語以上に「今日は暖かいね」「何か臭うの?」など、何気ない言葉をたくさんかけるようにしてみましょう。その日常会話の繰り返しで愛犬は飼い主とのつながりをより強く感じられるようになるのです。ワンランク上の愛犬との暮らしを目指すなら、たくさんお話をするように心がけてみてはどうでしょうか。

第8回
全国一斉

Dogs Walk For Keep Clean キャンペーン

第8回 全国一斉!
クリーン作戦



みんなでマナーを守って
人と犬が暮らしやすい町に
しましょう!

この活動は、全国同時に行われ
100万人の犬の飼い主さんに手渡すことを目標にしています。